

# 病理診断科（病理部）



## 1. 病理診断科の紹介

病理診断学は、病理組織診断を基盤に臨床情報を包括した総合診断の体系です。病理医は、臨床各科からの生検検体の病理組織診断を確定して治療方針決定に寄与し、手術切除検体の悪性度・進行度を診断して治療効果判定や予後予測に必要な情報を提供します。症例件数は、組織診7,700件、術中迅速430件、細胞診6,000件で、

年々増えています。大学病院では稀少症例も多く、多岐の疾患について研修できます。病理解剖は年間約20例、系統的に詳細な解析を行い、病態や臓器相関の観点から検証します。今日の高度先端医療、がん診療、地域医療の振興などあらゆる局面で病理専門医が求められています。私どもと共に学び、病理専門医を目指しましょう。

## 2. プログラムの目的と特徴

愛媛大学病院を基幹施設として3年間は連携施設との協同で病理専門医資格の取得を目指します。県下の中核病院、がんセンターなど、症例は多彩で指導医も人材豊富です。当地の「愛媛病理研究会」を基盤に、高水準の診断能力とリサーチマインドを備えた病理医を育成します。現在、愛媛県の病理専門医は27名、7割が50歳以上です。今後のがん診療、地域医療には、病理専門医の

勤務する病院が不可欠です。いま病理医を目指すならば、働き盛り、燦し銀世代から英知に満ちた指導を受けてキャリアを重ね、大学や地域の拠点病院で、活躍する進路が拓けます。若い世代が希望を持って進めるよう、専門医取得後の進路や、ライフサイクルに適した就労を支援します。

## 3. 経験目標

- \* 臨床研修2年修了+3年以上の病理専門研修修了  
(推薦書、病理専門研修手帳)
- \* 死体解剖保存法による死体解剖資格の取得
- \* 病理専門医研修期間中の人体病理学実践経験として
  - a) 病理解剖で剖検診断報告書24例以上、CPC報告書2例以上
  - b) 生検・手術検体の病理組織診断5000例  
(術中迅速診断50例)以上
  - c) 人体病理学に関する原著論文・学会報告3編以上
- \* 講習会受講  
(剖検講習会、細胞診講習会、分子病理診断講習会)



病理業務：手術検体の切り出し行程

## 4. 指導医と指導体制

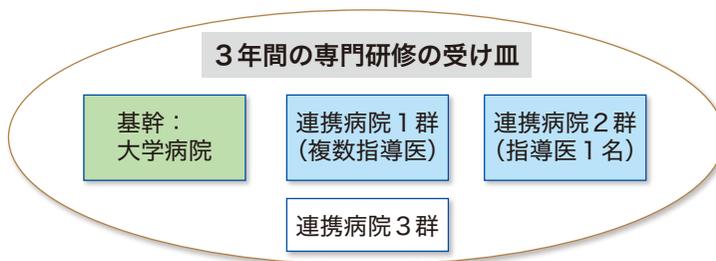
病理部長	北澤 理子	病理診断学
分子病理学教授	北澤 荘平	病理診断学
解析病理学教授	増本 純也	病理診断学
県立中央病院部長	杉田 敦郎	病理診断学
松山日赤病院部長	大城 由美	病理診断学

四国がんセンター部長	寺本 典弘	病理診断学
市立宇和島病院科長	松影 昭一	病理診断学
松山市民病院部長	飛田 陽	病理診断学
済生会西条病院名誉顧問	植田 規史	病理診断学
愛媛労災病院部長	大西 博三	病理診断学

## 5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	生検・切出業務	生検・切出業務	生検・切出業務	生検・切出業務	生検・切出業務
PM	迅速診断 症例検討会 生検診断	迅速診断／研究カンファ 生検診断／Expert panel	迅速診断／剖検APC 剖検CPC／症例検討会 生検診断	迅速診断 症例検討会 生検診断	迅速診断 生検診断

## 6. 新専門研修プログラム



### 専門研修3年間 複数のパターンから選択可能

初期臨床  
研修2年

- \*大学病院→連携病院(1, 2群)→大学病院
- \*連携病院1群→大学病院→連携病院(1, 2群)
- \*大学病院→連携病院(1, 2群)→連携病院(1, 2群)
- \*大学院生(助教)(→連携病院の外勤)

募集定員2名/年です。

専攻医(病理部医員、病理学講座大学院生や助教)として3年間の研修を行います。大学病院と連携病院とのローテート研修が可能です。医員で「社会人大学院進学」も出来ます。

## 7. 専門研修修了後について

大学院進学は随時可能です。病理専門医資格取得後は、愛媛大学または連携施設1, 2群に勤務して、病理診断サブスペシャリティの確立、病理学研究の推進、医学教育など、進路選択に応じた経験を積むことができます。

留学(国内外)や3群連携施設の専任病理医となることも可能です。研究志向の場合、病理組織学の経験知は、全ての分野で基礎研究や臨床研究の基盤となります。

## 8. 専門研修の問い合わせ先

担当：北澤理子(愛媛大学附属病院 病理診断科・病理部 病理部長(特命教授))

TEL：089-960-5622 E-mail：riko@m.ehime-u.ac.jp

